

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800102		
法人名	有限会社サークルツー		
事業所名	まるにグループホーム		
所在地	〒421-0414静岡県牧之原市勝俣1265-3		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2295800102-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まるにの理念に基づき、ご利用者様お一人おひとりに笑顔が溢れ、今後のご自分の人生を主人公として暮らせるように、より豊かな生活支援に心掛けています。一人ひとりの想い・希望を大切にし、感謝・感動を共有し、ともに安心し、その人らしい生活が送れるように介護支援の努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年間の研修計画や、本年度の実践に伴い急ぎ作成した『重度化した場合における(看取り)指針』、また法改正の『身体拘束適正化に係る取組み』といった書類が丁寧に制作されている様子が安心感の湧く事業所です。普段から週2、3日勤務の看護師のほかに訪問看護事業所が週1で訪れ、医療体制も堅固です。豆まきはデイサービスと、クリスマス会は小規模多機能事業所と、また保育所には誕生日会に乗じて訪問と、敷地内に6事業所をもつ法人のスケールメリットを大いに享受するとともに、それに甘えずこれまでの写真を編集してDVDにまとめ、家族にお届けしようとするなど、新規性に富むことにも意欲的です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日、介護報告を作成 ・毎日の打ち合わせ等で、ケアの統一を図るようにしている	理念をベースとした、なるべき姿と研鑽方法が『自己評価表』に落とし込まれ、年1回の振り返りを以って運用されています。さらに職員の目標設定にも取り組む予定で、現在フォーマットを準備中です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事計画をし、実施する ①バーベキューの会 ②地域祭典への参加	小規模保育所、小規模多機能事業所、福祉用具、通所介護、居宅介護支援事業所が同じ敷地に在り、合同で行事をおこなうことも多く、6事業所全体で地域とつながることが結果増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症サポーターとして活動 ・認知症予防体操や、地域への講和依頼に参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内容を職員に伝えている	家族が出席しやすいように夕方からの開始としていますが、行政、地域も足を運んでくださり、特に町内は会長が欠席なら副会長と必ず代理を立ててくださる協力ぶりで、常に助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度、連絡・相談をしている	本年度は実地指導があり、是正すべき点については明確な指導が得られ、速やかに修正しています。平成17年にみなしで立ち上げたの、介護保険制度以前から重ねた関係で、双方相談をもちかける事ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」をつくり、指針に沿って実施	本年の法改正に伴い、速やかに指針を作成するとともにマニュアルを整備し、『身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会』を設置しています。法令では年4回とする委員会開催はすでに3回終えています。	指針及び、実施の経過記録については、付加したら良いと思われる箇所があるため、年度末までに見直すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護者の声を聞けるように、要望箱を設置	事業所通信は再開を果たし、写真を多用していることから家族にも好評で、これまでの写真を編集してDVDにまとめ、お届けすることも準備中です。退所となった利用者家族にはすでに渡していて、大変喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、棟会議実施	会議では途中管理者が抜けて、一般職のみの状態となるという方式をとり、忌憚ない意見がでるよにしています。「縦書きより横書きのほうが使いやすい」といった小さな改善も進み、風通しのよい環境にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設経営者実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・市内、外の研修に参加していけるよう補助をしている ・個々の目標を聞き取り、研修の機会を設けるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・サービス事業所会会議・研修に参加 ・勉強会への声掛け		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護者、家族から情報を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度声掛けをさせて頂いたり、連絡・相談には随時応じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状により難しい時もあるが、各々にできることを、役割・担当をもって頂くなどして、共に動いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に情報交換をする ・来る回数が少ない方には、電話を利用 ・おたより発行		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんが自宅近くに赴いていくことは中々できないが、面会に来て下さる方々がいらした時には、自由に過ごしてもらおうようにしている	事業所行事は、昨年度の集客率が気がかりで今年はポスティングに加え、回覧板に差し込んでもらったりと積極的な動きをしたところ家族も全出席で、面会には訪れない孫の顔も見られて賑やかな1日となりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の相性があるので、過ごす場所やテーブル、メンバー等に留意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・様子観察をし、状況把握に努めている ・本人に聞き取りをする	「畑が気になる」「じゃあドライブの帰りに～」と、言葉にできる利用者の意向は概ね実現しています。想いが声にならない人には、本人の動きや様子観察から「こうしたらいい、こうしたらいい」と職員が考えて実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集はしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報共有・連絡連携		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力している	職員意見により作成された『モニタリング総括表』には短期目標を移し入れ、実施状況、目標達成度、本人・家族満足とともに具体的な訴求点のある評価が記載されていて、介護計画の基盤が確かなことが視えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺との関わりを持つように努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	努力している	8名の内1名が協力医に変更しています。在宅の頃からのかかりつけ医の通院は家族に付き添いをお願いしています。難しいとなれば代行し、協力医の通院介助とともに、管理者又は看護師がおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努力している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望は聞いている	重度化へ向かう利用者がいたことで、急ぎ『重度化した場合における(看取り)指針』を整備し、『看取り介護の同意書』を作成しています。週2、3日勤務の看護師のほかに訪問看護事業所から週1日訪れていて、看取り態勢を支えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修実施 ・資料用意		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自施設での訓練を実施しているのみ	月2回の防災訓練には「歌をうたう中、不意に地震発生～」と、様々な設定でおこない「窓を閉めたか」のチェック項目もあります。また年2回の法廷訓練は6事業所で実施し、内1回は消防署の立会いを求めています。	備蓄の試食をおこない、利用者の声も確認することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施		「やや職員のリードが見られる」との課題には、『基本倫理』『接遇』の研修内で特に注視して取組み、「トイレ誘導では～」と、具体的に指導をおこない、改善に向け試みしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施(危険のリスクのない範囲内で)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険のリスクがないことを前提に実施			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	集団生活において、他の利用者さまへの影響のない範囲内で			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	臨機応変に対応		昼食は階下の厨房から届きますが、朝・夕食はキッチンで職員が調理しています。しょうが焼きに絡んだ生姜のひげが気になる利用者に優しく説明したりと、和やかな食事風景です。誕生月は外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施	円背の利用者は立位保持ができませんが、トイレで排泄できるよう支援しています。状態変化が激しいので夜間は睡眠を優先し、「本人に動く意志がある」ときはトイレ誘導し、動かない場合は紙おむつとしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に記録、観察		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決めている (必要に応じて変動あり)	3面から脚を入れることができ、手すりも備わった入浴しやすい浴槽です。足腰が弱くなり洗身ではシャワーチェアを使用するようになった2名も含め、2人介助となっても湯に浸かる喜びを味わってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内で実施		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲内で実施	気候のいいときは2日に1度程度は散歩をおこない、季節の風を楽しんでいて、公園を目標したりのコースがいくつかあります。年中外出として初詣、花見(藤、桜、チューリップ)があり、毎月の日用品の買い物外出が継続されています。	「どこに行きたいですか」「ここはどうですか」といった投げかけが日常にあることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ほとんどの方が自分で管理ができない ・しかし個々の買い物に行った時には、支払い等をやって頂くこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している	生活リハビリの一環で個室掃除は職員と一緒に1日置きにおこなっています。日勤者が床掃除を朝・昼・晩おこない、再び夜勤者が掃除及び除菌と1日に4回重ねて、更に業者が隔日で入り大変清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している	洋服が大好きで沢山持ち込んだものの、本人が混乱をきたしたため、家族と相談してお気に入りを選択して必要最低限にしたところ、落ち着いたというケースもあり、全体に持ち込みは少なく、すっきりとした居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施		